

平成30年 3月

渡邊仁美 学位論文審査要旨

主 査 深 田 美 香
副主査 南 前 恵 子
同 萩 野 浩

主論文

Core values in nursing care based on the experiences of nurses engaged in neonatal nursing: A text-mining approach for analyzing reflection records

(新生児看護に従事する看護師の経験から導き出された看護の中心的価値：テキストマイニングによるリフレクション記録分析)

(著者：渡邊仁美、奥田玲子、萩野浩)

平成30年 Yonago Acta Medica 掲載予定

参考論文

1. 患者・家族が満足できる看護師のケア行為

(著者：渡邊仁美、藤井春美、瀧田千恵美、石賀奈津子、足立佳子、奥野梨沙、萩野浩)

平成29年 看護実践の科学 第42巻 58頁～64頁

学 位 論 文 要 旨

Core values in nursing care based on the experiences of nurses engaged in neonatal nursing: A text-mining approach for analyzing reflection records

(新生児看護に従事する看護師の経験から導き出された看護の中心的価値：テキストマイニングによるリフレクション記録分析)

看護師の「価値や信念に基づく行動」は、臨床の現場での看護に影響する。したがって看護師は自分の看護の経験の記述により、自己との対話をとおして自分の看護の中心的価値を導き出すことができる。本研究では、新生児看護に従事する看護師の経験から導き出された看護の中心的価値の特徴を、リフレクションシートのテキストマイニングにより明らかにすることを目的とした。

方 法

本研究は、テキストマイニングツールによる仮説探索的研究である。研究対象者はA大学医学部附属病院総合周産期母子医療センターで新生児看護に従事している看護師43名である。陣田泰子が考案した看護の概念化シートを参考に6項目の質問からなる独自のリフレクションシートを作成した。庄司和晃の認識の三段階連関理論にしたがって、質問を「忘れられない事例」と「その理由」は感覚的認識、「その時どうしたらいいと考えたか」、「看護の阻害要因と促進要因」は表象的認識、「大切にしている看護」、「自身の核となる看護」は概念的認識に分類した。新生児看護経験5年未満と5年以上で区分して、テキストマイニングによって看護師の新生児看護経験に伴う看護の中心的価値の特徴を比較した。

結 果

単語頻度解析の結果では名詞の出現頻度では一般名詞が多く、感覚的認識での看護の対象は「子ども」、「母親」、「家族」であった。しかし、表象的認識の段階では、注目語分析の結果、新生児看護経験5年未満の看護師は看護の対象を「患者」と「家族」を別々に認識し、経験5年以上は「患者」、「家族」を一緒に認識していた。概念的認識の言葉のネットワーク解析では5年未満では一方向性の関係を示すクラスターが形成されたのに対して、5年以上では看護師と患者・家族との相互的な関係を示すクラスターが形成された。

考 察

概念的認識において新生児看護経験5年以上、5年未満の看護師は、共通して家族を中心とした中心的価値を認めていた。特に経験5年以上の看護師は、表象的認識としての家族・患者と自身との相互的な関係性を認め、自身が看護する家族と患者に対し、危険の回避や安らかさ、癒しの意味をもつケアリングを概念的認識として認め看護していることが示唆された。臨床経験5年以上は、臨床での経験と演繹的推論が一致する時期であり、自身の看護の概念化に基づき看護が実践できる時期と考えられた。一方、経験5年未満の看護師は一方向性のケアとなっており、対象者にとって何らかの意味をもたらすケアリングには至っていないことが伺えた。看護を語り合いにより、経験から学習できる環境は、自らの経験について認識の三段階を上り下りし、抽象化し具現化する過程で看護について深く考える場となる。リフレクションし、語るプロセスは、自身の看護の中心的価値を醸成し、認識と行動が一体化されたより良い看護の創造につながると考える。

結 論

リフレクションシートに記載された言語をテキストマイニングツールで分析し、新生児看護経験5年未満と5年以上で比較した結果、以下の知見が得られた。新生児看護に従事する看護師の経験から導き出された看護の中心的価値は、家族支援であった。5年未満の看護師は、看護師の対象者に対する一方向性のケアであるのに対して、5年以上の看護師は、相互的な関係の中で対象者を認識していた。